

# 「きつい」の多義構造 -認知言語学の観点から-

レギ・ウィジャヤ・サスマタ

1206129

## 要旨

本稿では、形容詞「きつい」の多義構造に関する分析を行った。認知言語学の観点から、意味の関連性と意味拡張を包括的、体系的に明らかにすることを目的としているものである。使用される方法は記述的分析であり、各所からのデータを収集し、分析し、意味記述をした。結果は、形容詞「きつい」が多様な辞書と反対語と同意語を使い、意味を確かめた。その上で、「きつい」の言葉に 10 の意味があるのが明らかになった。次に、およそ 405 の例文を使い、再分類をした。これは、各意味が実際に存在するかどうかを確かめた。以上を踏まえ、特殊の辞書を使い、形容詞「きつい」の基本義を認定した。結果によると、形容詞「きつい」の基本義は窮屈「物理的に隙間や緩みがない」、転義は：時間の余裕がない；厳しい；性格が厳しい；優しくない；口調が強い；激しい程度；臭覚に強い；味覚に強い；傾斜が急である。また、複数の意味の相互関係について比喩に基づく意味拡張という観点によって明らかにした。その上で、それぞれの意味から四つがメタファーにより意味を転用され、二つがメトニミーにより意味を転用され、それ以外はシネクドキーにより意味を転用された。

キーワード： 形容詞、多義語、認知言語学

## 1. はじめに

日本語の言葉の中で複数の意味を持っている言葉がある。それらが多義語と言われている。インドネシア語に訳した辞書にはこのような言葉の詳しい説明はあまりない。そのために、この言葉に対して理解するのに難しく、または翻訳する際に間違ふ恐れがある。以上の問題を踏まえ本研究を行った。

## 2. 辞書類における「きつい」に関する定義

前節で述べた通り、形容詞「きつい」は多義語として複数の意味を持つ

ている。そこで、本節では形容詞「きつい」の多義を『日本語大辞典』、『日本語多義語学習辞典』、『国語大辞典』、『現代形容詞用法辞典』、『デジタル大辞泉』、『基礎日本語辞典』の6種に参考し、意味を提示している。

### 2.1. 日本語大辞典（梅棹忠夫、1995）

この辞典によると、「きつい」の意味は4つある。すなわち、(i) 疲れるほど激しい。ひどい、(ii) 気性が強い。つよい、(iii) きびしい。つらい、(iv) 窮屈だ。すきまがない。

### 2.2. 日本語多義語学習辞典（今井新悟、2011）

この辞典によると、「きつい」の意味は10ある。すなわち、(i) 隙間や緩みがない、(ii) 時間の余裕がない、(iii) 厳しい・つらい、(iv) 性格が厳しい、(v) 表情が厳しい、(vi) 口調・態度が厳しい、(vii) 程度が強すぎて苦痛だ、(viii) 味が強すぎる、(ix) 匂いが強すぎる、(x) 傾斜・角度が急だ。

### 2.3. 日本国語大辞典（小学館、2005）

この辞典によると、「きつい」の意味は5つある。すなわち、(i) 感覚に受ける刺激が強い、(ii) 激しい。厳しい、(iii) こらえたり、なしとげたりするのが大変である。たえがたくつらい、(iv) 人の気性がはげしい、(v) 物理的にすきまがない。ゆるみがない。また、せまくて窮屈だ、(vi) 程度がはなはだしい。大変な程度である。ひどい。

### 2.4. 現代形容詞用法辞典（飛田良文・浅田秀子、1991）

この辞典によると、「きつい」の意味は5つある。すなわち、(i) 物理的に余裕がない、(ii) 要求や規則などが厳しくて余裕がない、(iii) これらから一歩進んで、程度がはなはだしい、厳しいという意味である、(iv) 人の性格について言う、(v) 刺激の強さについて言う。

## 2.5. デジタル大辞泉（小学館）

この辞典によると、「きつい」の意味は7つある。すなわち、(i) 物事の程度がはなはだしい、(ii) 鼻や舌などへの刺激が強い、(iii) 力の入れ方・加わり方が強い、(iv) ゆとりがなく、窮屈である、(v) 規律・要求などが厳しい、(vi) ある事柄をこなしたり、それに耐えたりするのが容易でない、(vii) 気性が激しい。気が強い。

## 2.6. 基礎日本語辞典（森田良行、1998）

この辞典によると、「きつい」の意味は3つある。すなわち、(i) する者とされる者の関係にたつ「きつい」、(ii) 性質・有様を表す「きつい」、(iii) 物と物との接触「きつい」。

## 3. 再分類

405 の例文を使い、再分類を行なった。結果としては、二つの新しい定義を見つかれ、以下通りに示している。

1. 音・声が強すぎる。
2. 視覚に受ける刺激が強い。

## 4. 研究方法

本節では次節で行う多義語分析における研究方法について提示する。

まず、必要になっている日本語の用例を各所の出典より収集した。用例に関する出典は：NINJAL - LWP for BCCWJ (NLB)；日本語大辞典、梅棹忠夫、1995；日本語多義語学習辞典、今井新悟、2011；国語大辞典、小学館、2000；現代形容詞用法辞典、飛田良文と浅田秀子、1991；基礎日本語辞典、森田良行、1998。

次に、町田・靱山 (Sutedi, 2016: 78) を踏まえ、多義語分析に関し、(i) 意味区分；(ii) 基本議の認定；(iii) 多義構造の表示の3つの手順が必要

になっている。

また、形容詞「きつい」の複数の意味の関連性は、それぞれ意味が3種類の比喩、すなわち、隠喩（メタファー）、提喩（シネクドキー）、換喩（メトニミー）の観点から考察する。なお、比喩の定義は靑山・深田（Lee, 2016）に従う。

メタファー : 2つの物事・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて地方の事物・概念を表すという比喩。

「類似性に基づく」というのは、2つの事物・概念に類似性が内存しているというよりも、人間が2つの対象の間に主体的に類似性を見出すことを表していると考えた方が適切である（p. 3）。

シネクドキー : より一般的な意味をもつ形式を用いて、より特殊な意味を表す、あるいは逆により特殊な意味をもつ形式を用いて、より一般的な意味を表す比喩（p. 3）。

メトニミー : 2つの事物の外界における隣接性、さらに広く2つの事物・概念の思考内概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、地方の事物・概念を表す比喩（p. 4）。

## 5. 「きつい」の意味分析

本節では、「きつい」を10の別儀に分け、考察を行う。

### 5.1 多義的別儀（1）（基本義）：物理的に隙間や緩みがない。

- (1) スカートのきつくてはけない。（今井、2011：117）
- (2) 靴がきつい。（小学館、2005：933）
- (3) ひもできつく縛る。（飛田・浅田、1991：183）
- (4) ひもをきつく結ぶ。（森田、1998：373）

別儀 (1) は、隙間や緩みがないという意味を表している。しかしながら、(1) と (2) の例文のように、あるものにゆとりがなく、窮屈という感じを表している。一方、(3) と (4) のように力の入れ方・加わり方が強いという状態もある。

## 5.2 多義的別儀 (2) : 時間の余裕がない。

- (5) 今週は予定がきつい。(今井、2011 : 117)
- (6) 旅行のスケジュールがきつくてかなり疲れた。(今井、2011 : 117)
- (7) 日程がきつくて大変だ。(飛田・浅田、1991 : 183)
- (8) とにかくスケジュールがきつすぎます。(樋口、1986 : 385)

別儀 (1) のように、余裕がないという意味を表しているが、別儀 (2) には時間に余裕がない。別儀 (1) との関連性は別儀 (2) の概念 (時間) が別儀 (1) の概念 (物理的の事物) と同じように扱われる。類似性として認識したので、隠喩 (メタファー) により意味を拡張したと考えられる。

## 5.3 多義的別儀 (3) : 厳しい・つらい。

- (9) 給料は少ないのに労働時間が長くて、ここはきつい職場だ。(今井、2011 : 117)
- (10) 急な運動は体にきつい。(梅棹、1995)
- (11) したがって、自然ときつい仕事はあなたに回ってくる。(長山、2003 : 366)
- (12) おそらくあれがこの三千世界で一番きつい仕事だろうな。(沢田、2005 : 913)

別儀 (2) と同じように、別儀 (1) に対し、隙間や緩みがないように、心身に余裕がなく、厳しくて辛いことを表す。<sup>1</sup> 要するに、これも隠喩 (メタファー) による意味の転用であると考えられる。

<sup>1</sup> 今井新悟、『日本多義語学習辞典 形容詞・副詞編』、2011、117

#### 5.4 多義的別儀 (4) : 性格が厳しい。

- (13) 彼女は美人だが性格がきつい。(今井、2011 : 117)
- (14) あの仕事は性格がきつくないとやっていけない。(飛田・浅田、1991 : 184)
- (15) きついところのある子。  
(<https://dictionary.goo.ne.jp/jn/52804/meaning/m0u/>)
- (16) 私の場合は丸田さんと違って、自分の性格がきついことはわかっていました。(大日向、2001 : 599)

別儀 (4) は、ある人の性格が厳しいと表している。性格がきついというのは、心に隙間がないように、性格に余裕や緩みがなく、厳しいことを表している。別儀 (4) は別儀 (3) より、隠喩 (メタファー) によって意味を拡張したと考えられる。

#### 5.5 多義的別儀 (5) : 表情が厳しい。

- (17) 彼女にきつい目つきでにらまれた。(今井、2011 : 118)
- (18) 前はもっとやさしかったのに、きつい顔つきに変わってしまった。  
(今井、2011 : 118)
- (19) 試合に負けたチームの選手は、みなきつい表情のまま球場を後にした。(今井、2011 : 118)
- (20) それを見て、景子はきつい目で睨んだ。(豊田、2002 : 913)

以上の例文を見た通り、別儀 (5) は表情が厳しいを表している。表情が厳しいなのは心に隙間や緩みがないためである。この別儀は別儀 (3) と原因と結果の関係があるために、別儀 (5) は換喩 (メトニミー) により意味を拡張したと考えられる。

#### 5.6 多義的別儀 (6) : 口調・態度が厳しい。

- (21) 先生が学生をきつい口調で叱った。(今井、2011 : 118)

(22) 今度やったらきつく叱るってやってくださいな。(飛田・浅田、1991 : 184)

(23) ずいぶんきつい言葉も言った。(武蔵国際総合学園、2001 : 371)

(24) 母がきつい言い方をしたので、頭にきた。(戸梶、2003 : 913)

別儀 (6) は別儀 (5) と同じように、心に隙間や緩みがないため、口調や態度が厳しくなる。要するに、別儀 (3) が原因として別儀 (6) の結果になる。それで、別儀 (6) は別儀 (3) より、換喩 (メトニミー) により意味を転用したと考えられる。

### 5.7 多義的別儀 (7) : 程度が強すぎて苦痛だ。

(25) 今日は日差しがきつくて大変だ。(今井、2011 : 118)

(26) 今年は寒さがきつい。(飛田・浅田、1991 : 184)

(27) 朝五時ごろ雨がきつく降る音に目が覚めた。(大豊、2003 : 289)

(28) きつい光を蒼い瞳に浮かべて、ユリアスを見やる。(赤城、2001 : 913)

別儀 (7) は、別儀 (1) の意のような空間に余裕がなく、限界に近くなるように、心身の限界に達しそうなほど、強く苦痛を感じることを表す。<sup>2</sup> 空間に余裕がないのは基本義の物理的に余裕や隙間がないと同じである。類似性が認められることより、隠喩 (メタファー) により拡張したと考えられる。

### 5.8 多義的別儀 (8) : 味が強すぎる。

(29) このオレンジは酸味がきつすぎて食べられない。(今井、2011 : 119)

(30) この酒はきつくて僕にはとても飲めない。(飛田・浅田、1991 : 184)

(31) だし汁を加え、酢のきつさをやわらげます。(志の、2001 : 596)

(32) 酒といってもアルコールがきついので、日本では焼酎を使い、龍眼

<sup>2</sup>今井新悟、『日本多義語学習辞典 形容詞・副詞編』、2011、117

肉の代用にはレーズンでいいのではないかしら。(高松、2004 : 374)

別儀 (8) は、味覚に起こる苦痛を表している。この苦痛の感じは別儀 (7) のような苦痛と見なされる。別儀 (7) がさらに限定されたものと認められるので、提喩 (シネクドキー) により拡張と考えられる。

### 5.9 多義的別儀 (9) : 匂いが強すぎる。

- (33) 女房のつける香水の匂いはきつい。(今井、2011 : 119)
- (34) きついたばこを吸って目を回した。(飛田・浅田、1991 : 184)
- (35) 刺身の塩素のにおいがきついものはさけましょう。(水野、2002)
- (36) きつい香水の匂いをさせて、ミナコ、と名乗っている女がせせら笑った。(柴田、2001 : 913)

別儀 (9) は、嗅覚に感じる苦痛である。別儀 (8) とほぼ同じ、別儀 (7) がさらに限定されたものと認められ、提喩 (シネクドキー) によって転用した。

### 5.10 多義的別儀 (10) : 傾斜・角度が急だ。

- (37) 傾斜がきつい坂を登るのに苦労した。(今井、2011 : 119)
- (38) きつい勾配。  
(<https://dictionary.goo.ne.jp/jn/52804/meaning/m0u/>)
- (39) 次のピークへの登りは傾斜がきついものの尾根は広い。「北山の会」  
崑崙隊登山報告書編集委員会、2001 : 292)
- (40) さほどきつい山ではなく、変化に富んだ山と言えます。(石井、2002 : 49)

別儀 (10) も、苦痛の感じことを表している。どのようなことかという、角度や傾斜などである。別儀 (8) と別儀 (9) と同じように意味を別儀 (7) より提喩 (シネクドキー) によって転用した。

### 5.11 多義的別儀 (11) : 音・声が強すぎる。(追加)



(41) 二階にまで声が響くほどきつくはしないよ ...。(高崎、2004 : 913)

#### 5.12 多義的別儀 (12) : 視覚に受ける刺激が強い。(追加)

(42) その侯爵の表情を見た十三郎は、日頃は眠たげ にみえる一重の眼  
にきつい光を浮かべると、立 花から話を引き取った。(赤城、2001 :  
913)

(43) 顔はきつい光のなかでけわしく、じっと動かな かった。(リルケ、  
1995 : 908)

以上、本節では「きつい」の10の別儀に対して分析を行い、関連性を比  
喩によって考察を行なった。さらに、隠喩により転用した意味は四つと換  
喩により転用した意味は二つと提喩により転用した意味は三つある。また、  
発見され、新しい定義が二つある。すなわち、音・声が強すぎると視覚に  
受ける刺激が強い。

## 6. 終わりに

以上、本稿では「きつい」の複数意味を分析し、関連性の考察を試みた。  
その結果は、「きつい」についての6の意味を認定することができた。なお、  
意味拡張の動機付けは隠喩（メタファー）と換喩（メトニミー）という比  
喩である。

### 引用文献

赤城毅 (2001) 『滅びの星の皇子』、集英社

石井善子 (2002) 『明日のおもいで』、牧野出版

今井新悟 (2011) 『日本語多義語学習辞典 形容詞・副詞編』、アルク

梅棹忠夫 (1995) 『講談社カラー版日本語大辞典』(第二版)、講談社

大日向雅美 (2001) 『子育てがづらくなってきたとき読む本』、PHP エディター  
ズグループ

「北山の会」崑崙隊登山報告書編集委員会編 『より高く、より遠く、未知を  
求めて』, 2001

- 志の島忠 (2001) 『酢のものあえものおひたしサラダ』、グラフ社  
 小学館 (2005) 『日本国語大辞典』、小学館; 精選版  
 高松直彦 (2004) 『17歳のパワフル海外修学旅行』、鉾脈社  
 大豊昇 (2003) 『はっぴい・らいふ』、文芸社  
 豊田行二 (2002) 『野望候補者』、光文社  
 戸梶圭太 (2003) 『あの橋の向こうに』、実業之日本社  
 樋口修吉 (1986) 『国別・外人接待法』、講談社  
 飛田良文、浅田秀子 (1991) 『現代形容詞用法辞典』、東京堂  
 水野葉子、本多厚二 (2002) 『オーガニックな生活』、星の環会  
 武蔵国際総合学園編 『不登校と向き合う』, 2001,  
 森田良行 (1998) 『基礎日本語辞典』、角川書店  
 長山靖生 (2003) 『若者はなぜ「決められない」か』、筑摩書房  
 沢田黒蔵 (2005) 『真田の狼忍』、学習研究社  
 柴田よしき (2001) 『R-0 amour』、祥伝社  
 李澤熊 (Lee) (2016) 『「かえる」と「かえす」の意味分析-日本語教育の観点から- 』

### 例文出典

❖ 本稿における幾つか例文は、以下のコーパスを参考にした。

- (1) NINJAL-LWP for BCCWJ (<http://nlb.ninjal.ac.jp/headword/AJ.00101/>)
- (2) Goo 辞書 (<https://dictionary.goo.ne.jp/jn/52804/meaning/m0u/>)



# BAB I

## PENDAHULUAN

### 1.1 Latar Belakang Penelitian

Suatu bahasa memiliki arti tergantung dari sudut pandang mana bahasa tersebut digunakan. Selain itu faktor kognisi pun sangat berperan dalam mempengaruhi bagaimana cara seseorang menentukan arti dari suatu bahasa. Bila hal tersebut berlaku pada umumnya bahasa, berarti hal tersebut berlaku pula terhadap bahasa Jepang. Seperti yang diketahui, bahasa Jepang merupakan salah satu bahasa yang istimewa, dikarenakan dengan banyaknya jenis kosakata yang dimiliki.

Dikemukakan oleh Sudjianto dan Dahidi Berdasarkan asal-susulnya, kosakata bahasa Jepang dapat dibagi menjadi tiga macam yakni *wago*, *kango*, dan *gairaigo*. Namun selain ketiga macam kosakata tersebut ada sebuah jenis kosakata yang disebut *konshugo* yaitu kata-kata yang merupakan gabungan dari beberapa kata dari sumber yang berbeda misalnya gabungan *wago* dengan *kango*, *wago* dengan *gairaigo* atau *kango* dengan *gairaigo*.<sup>3</sup>

Selain berdasarkan asal-usulnya kosakata diklasifikasikan pula berdasarkan karakteristik gramatikalnya. Menurut Sudjianto dan Dahidi berdasarkan karakteristiknya terdapat kata-kata yang tergolong *dooshi* (verba), *i-keiyooshi* atau ada yang menyebutnya *keiyooshi* (adjektiva-i), *na-keiyooshi* atau

---

<sup>3</sup> Sudjianto & Ahmad Dahidi, *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang* (Bandung: Kesaint Blanc, 2014) hlm. 99

ada yang menyebutnya *keiyoodooshi* (adjektiva-na), *meishi* (nomina), *rentaishi* (prenomina), *fukushi* (adverbia), *kandooshi* (interjeksi), *setsuzokushi* (konjungsi), *jodooshi* (verba bantu), dan *joshi* (partikel).<sup>4</sup>

Berdasarkan keterangan di atas, tidak dapat dipungkiri lagi bahwa bahasa Jepang merupakan bahasa yang kaya akan kosakatanya. Dengan banyaknya kosakata ini, tugas pembelajar bahasa Jepang untuk menguasainya menjadi salah satu pekerjaan rumah yang tidak bisa diabaikan.

Namun sering kali kosakata bahasa Jepang memiliki beberapa kekompleksan, salah satunya adalah kata yang memiliki arti banyak atau yang sering disebut dengan polisemi (*tagigo*). Menurut Kunihiro bahwa polisemi adalah kata yang memiliki makna lebih dari satu, dan setiap makna tersebut ada pertautan atau hubungannya.<sup>5</sup> Dari banyaknya kosakata bahasa Jepang yang berpolisemi, salah satunya adalah *I-keiyoshi* (adjektiva-i). *I-keiyoshi* ‘adjektiva-i’ sering disebut juga *keiyoshi* yaitu kelas kata yang menyatakan sifat atau keadaan sesuatu, dengan sendirinya dapat menjadi predikat dan dapat mengalami perubahan bentuk.<sup>6</sup>

Dari sekian banyak kata, penulis menemukan salah satu adjektiva-i yang berpolisemi yaitu *kitsui*, seperti pada kalimat berikut.

---

<sup>4</sup> Sudjianto & Ahmad Dahidi, *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang* (Bandung: Kesaint Blanc, 2014) hlm. 98

<sup>5</sup> Sutedi, *Mengenal Linguistik Kognitif*, (Bandung: Humaniora, 2016) hlm. 78

<sup>6</sup> Kitahara dalam Sudjianto & Ahmad Dahidi, *Op.cit.*, hlm. 154

(1) スカートがきつくてはけない。(Imai, 2011, hlm. 117)

*Sukaato ga kitsukute hakenai.*

Untuk kalimat seperti di atas mungkin saja bisa dengan mudah diterjemahkan menjadi “Karena roknya sempit, tidak bisa dipakai”.

Namun, untuk kalimat di bawah ini, mungkin saja pembelajar akan merasa kebingungan mengartikannya.

(2) 彼女は美人だが性格はきつい。(Imai, 2011, hlm. 117)

*Kanojo wa bijin da ga seikaku wa kitsui.*

(3) この仕事はきつい。(Imai, 2011, hlm. 117)

*Kono shigoto wa kitsui.*

Bagi pembelajar yang belum pernah mempelajari atau sedikit pengalamannya dalam menggunakan kosakata tersebut mungkin akan mengartikan contoh kalimat (2) menjadi *dia cantik tapi sifatnya sempit*, namun di sini arti yang lebih tepat adalah *dia cantik tapi sifatnya keras*. Dan untuk contoh kalimat (3) mungkin saja akan diartikan menjadi *pekerjaan ini sempit*, namun di sini akan lebih tepat bila diterjemahkan *pekerjaan ini berat*. Untuk dapat memahami setiap kosakata yang berpolisemi dapat dilakukan analisa dengan menggunakan analisis deskripsi menggunakan majas. Majas dapat digunakan dalam mendeskripsikan hubungan antar makna pada suatu kata yang berpolisemi atau kata yang memiliki makna ganda (Sutedi, 2016, hlm. 78). Ada 3 macam majas yang digunakan untuk mendeskripsikan makna kosakata berpolisemi yaitu majas metafora, metonimi dan sinekdoke.

Majas yang pertama, metafora. Menurut Sutedi Metafora adalah majas

perumpamaan yang digunakan untuk menyatakan sesuatu hal (A) dengan menggunakan hal lain (B) atas dasar kemiripan atau kesamaan. Berikut adalah contoh kalimat dalam bahasa Jepang yang mengandung majas metafora.<sup>7</sup>

- (4) 君は僕の太陽だ。(Sutedi, 2016, hlm. 58)  
*Kimi wa boku no taiyou da.*  
 ‘kau adalah matahariku.’
- (5) 男は狼である。(Sutedi, 2016, hlm. 59)  
*Otoko wa ookami de aru.*  
 ‘Laki-laki itu (semuanya) serigala.’
- (6) 正月休みに食べすぎて、ふたになってしまった。(Sutedi, 2016, hlm. 59)  
*Shougatsu yasumi ni tabesugite, buta ni natte shimatta.*  
 ‘Karena waktu liburan tahun baru (saya) terlalu banyak makan, badanku jadi babi.’ (=badanku jadi gemuk)

Majas yang kedua, majas metonimi. Menurut Sutedi, majas metonimi juga merupakan majas perumpamaan yang digunakan untuk menyatakan sesuatu hal (A) dengan menggunakan hal lain (B) atas dasar kedekatan, baik secara ruang maupun secara waktu. Berikut adalah contoh kalimat bahasa Jepang yang mengandung metonimi.<sup>8</sup>

- (7) めがねが曇った。(Sutedi, 2016, hlm. 65)  
*Megane ga kumotta.*  
 ‘Kacamata berawan (lembab).’
- (8) 冷蔵庫が開けっ放しにしてはいけない。(Sutedi, 2016, hlm. 65)  
*Reizouko ga akeppanashi ni shite wa ikenai.*  
 ‘Jangan membiarkan kulkas dalam keadaan terbuka!’
- (9) 彼は電話を取った。(Sutedi, 2016, hlm. 66)

<sup>7</sup> Sutedi, *Mengenal Linguistik Kognitif*, (Bandung: Humaniora, 2016) hlm. 45

<sup>8</sup> *Ibid.*

*Kare wa denwa o totta.*

‘Dia mengangkat telepon.’

- (10) 私はろうそくを吹き消した。(Sutedi, 2016, hlm. 66)

*Watashi wa rousoku o fukikeshita.*

‘Saya meniup (memadamkan) lilin.’

Dan yang ketiga adalah majas sinekdoke. Menurut Sutedi, majas sinekdoke adalah majas yang digunakan untuk menyatakan sesuatu yang umum (A) digunakan sesuatu yang lebih khusus (B), atau sebaliknya. Berikut adalah contoh kalimat bahasa Jepang yang mengandung majas sinekdoke.<sup>9</sup>

- (11) 毎朝、パンとたまごを食べている。(Sutedi, 2016, hlm. 72)

*Maiasa, pan to tamago o tabeteiru.*

‘Tiap pagi (saya) makan roti dan telur.’

- (12) あした、花見に行きます。(Sutedi, 2016, hlm. 72)

*Ashita, hanami ni ikimasu.*

‘Besok, akan pergi untuk melihat bunga.’

- (13) たまごを買ってきて。(Momiyama dalam Sutedi, 2016, hlm. 75)

*Tamago o katte kita!*

‘Tolong belikan telur!’

- (14) 今晚、飲みに行かない。(Momiyama dalam Sutedi, 2016, hlm. 75)

*Konban nomi ni ikanai?*

‘Malam ini kita pergi minum yu!’

Banyak sekali contoh kalimat bahasa Jepang di atas yang mengandung majas, yang notabene memiliki makna lain dan berbeda dengan makna dasar kata tersebut miliki. Bila seseorang tidak mengetahui hal tersebut, dapat diprediksi bahwa orang tersebut akan mengalami kesulitan dalam menerjemahkan, dan hal yang terburuk adalah salah menerjemahkan kata tersebut. Terlebih lagi, bila

<sup>9</sup> Sutedi, *Mengenal Linguistik Kognitif*, (Bandung: Humaniora, 2016) hlm. 45



seseorang akan melakukan penerjemahan, baik itu untuk kepentingan studi ataupun kepentingan pekerjaan kesalahan penerjemahan mungkin saja terjadi bila orang tersebut tidak mengetahui makna yang tepat. Untuk menghindari kekeliruan penerjemahan, maka analisis polisemi terhadap adjektiva-i *kitsui* penting untuk dilaksanakan. Oleh karena itu penulis bermaksud untuk melakukan penelitian dengan judul **“Adjektiva-I *Kitsui* sebagai Polisemi: Kajian Linguistik Kognitif”**.

## 1.2 Rumusan dan Batasan Masalah

Supaya penelitian dapat dilaksanakan dengan sistematis dan terarah, maka dirumuskan beberapa masalah sebagai berikut.

- 1) Apa yang menjadi makna dasar (*kihon-gi*) dari adjektiva-i *Kitsui* sebagai polisemi?
- 2) Apa yang menjadi makna perluasan (*ten-gi*) dari adjektiva-i *Kitsui* sebagai polisemi?
- 3) Bagaimana hubungan antara makna dasar dan makna perluasan dari adjektiva-i *Kitsui* sebagai polisemi?

Dari rumusan di atas, supaya pembahasan tidak terlalu meluas pada masalah yang lain, maka ditentukan beberapa batasan masalah berikut.

- 1) Penelitian ini hanya akan menganalisis makna-makna yang ada di dalam adjektiva-i *Kitsui* sebagai polisemi.

- 2) Penelitian ini hanya akan menganalisis hubungan antara makna dari adjektiva-i *Kitsui* sebagai polisemi.

### 1.3 Tujuan dan Manfaat Penelitian

Berdasarkan masalah yang telah dirumuskan di atas, tujuan dalam penelitian ini adalah sebagai berikut.

- 1) Mengetahui makna-makna yang terkandung dalam adjektiva-i *kitsui* sebagai polisemi.
- 2) Mengetahui makna dasar (*kihon-gi*) dan makna perluasan (*ten-gi*) yang terkandung dalam adjektiva-i *kitsui* sebagai polisemi.
- 3) Mengetahui hubungan antara makna dasar dan makna perluasan adjektiva-i *kitsui* sebagai polisemi.

Adapun Manfaat dilakukan penelitian ini adalah sebagai berikut.

- 1) Manfaat teoretis: menambah khazanah keilmuan khususnya linguistik kognitif dan keefektifannya dalam mengkaji kosakata berpolisemi.
- 2) Manfaat praktis: sebagai referensi dan alat bantu bagi pembelajar bahasa Jepang sehingga bisa memudahkan dalam menjawab pertanyaan-pertanyaan seputar kosakata berpolisemi khususnya kosakata *kitsui* sendiri yang sering digunakan di masyarakat.

### 1.4 Struktur Organisasi Skripsi

Dalam skripsi ini ada lima bab yang akan dibahas. Bab I menjelaskan tentang pendahuluan yaitu latar belakang masalah, rumusan masalah, batasan masalah, tujuan penelitian dan manfaat penelitian. Selanjutnya pada Bab II landasan teoretis, menguraikan berbagai pendapat para ahli dari berbagai sumber terpercaya yang mendukung penelitian ini. Pada Bab III berisi tentang metode penelitian, teknik pengumpulan data, sumber data dan teknik pengolahan data yang dibahas secara rinci. Dalam Bab IV diuraikan hasil analisis data, yang pada penelitian ini adalah mengenai makna dasar dan makna perluasan dari adjektiva-*i kitsui*. Dan pada Bab V diuraikan kesimpulan dari hasil penelitian, implikasi dan rekomendasi untuk penelitian berikutnya.